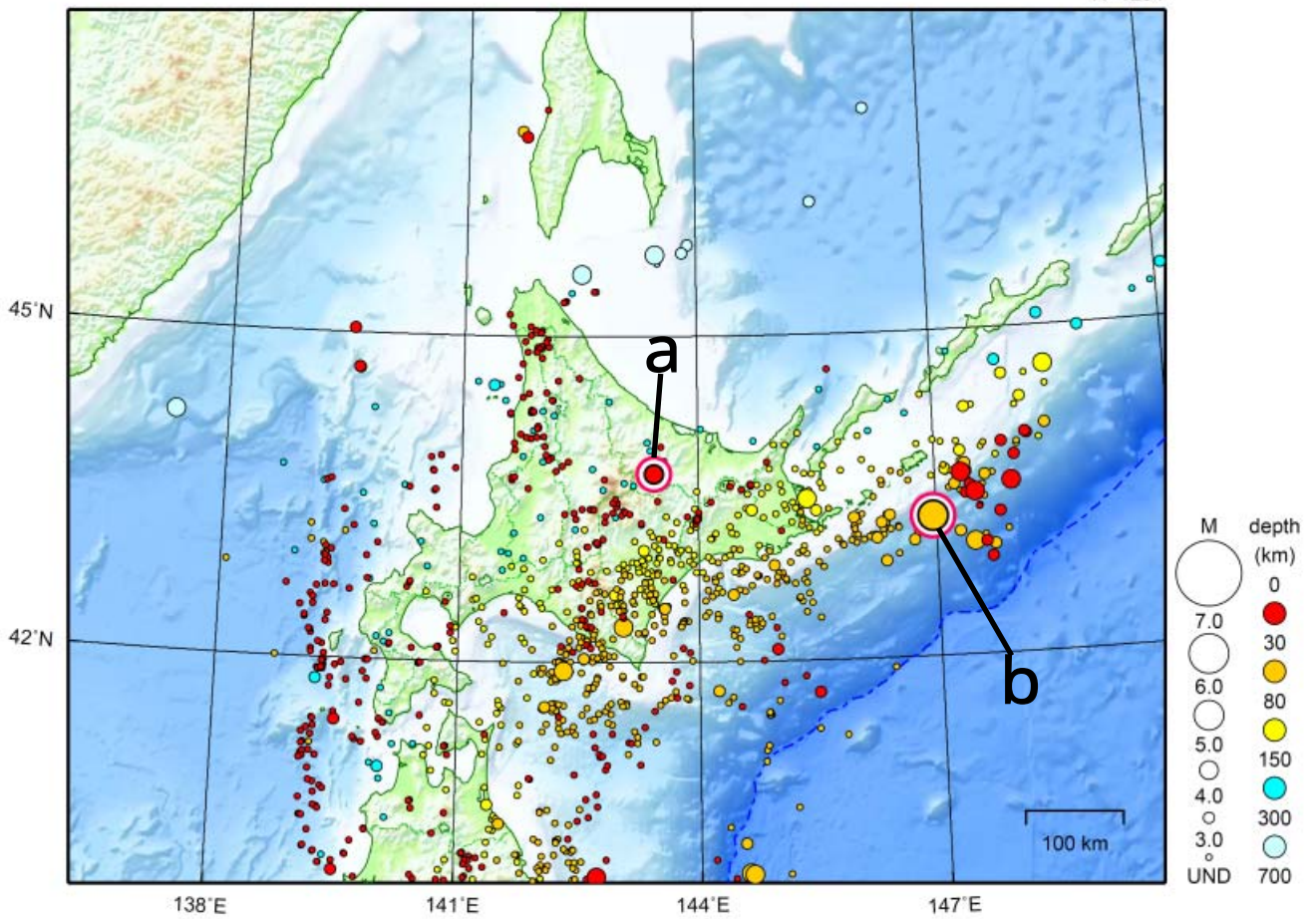


# 北海道地方

2009/11/01 00:00 ~ 2009/11/30 24:00

N=1294



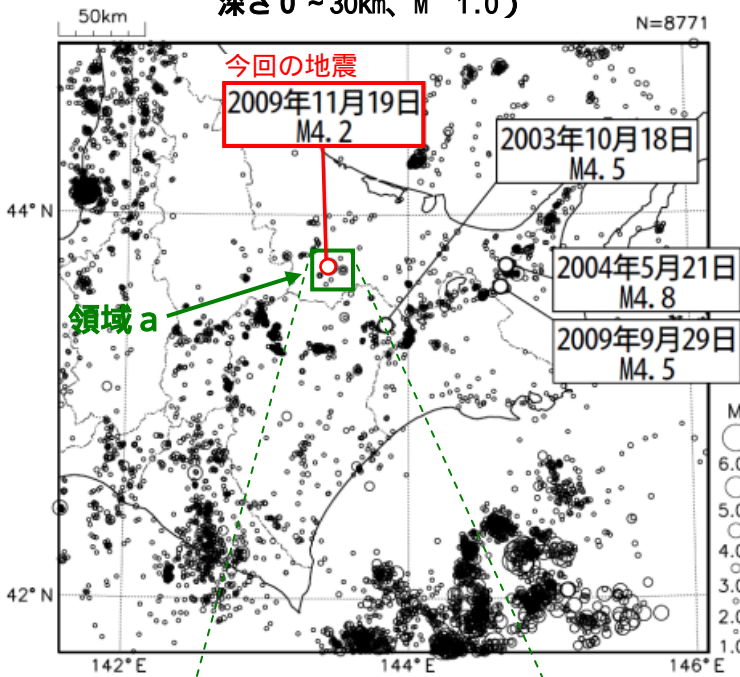
地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOPO30、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

- a) 11月19日に網走支庁北見地方で M4.2 の地震 (最大震度 3) が発生した。
- b) 11月24日に北海道東方沖で M5.0 の地震 (最大震度 3) が発生した。

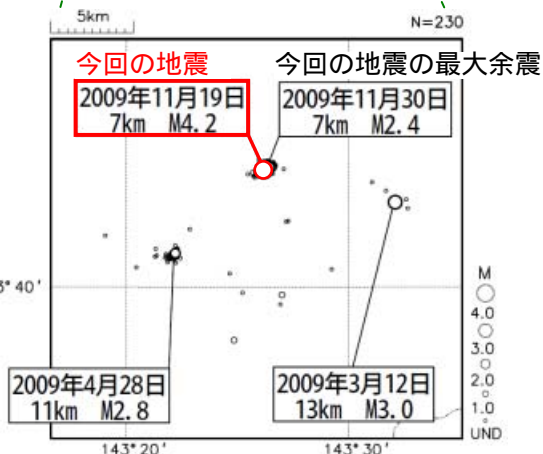
[ 上述の地震は M6.0 以上または最大震度 4 以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度 3 以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。 ]

# 11月19日 網走支庁北見地方の地震

震央分布図 (2001年10月1日~2009年11月30日、深さ0~30km、M 1.0)



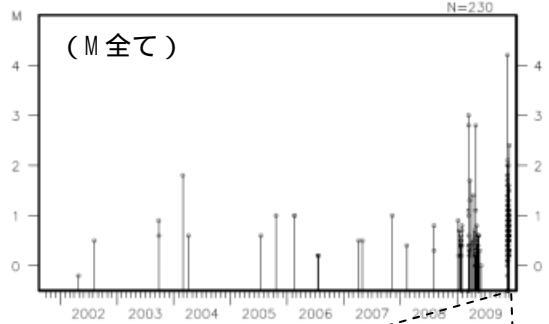
領域aの拡大図 (M 全て)



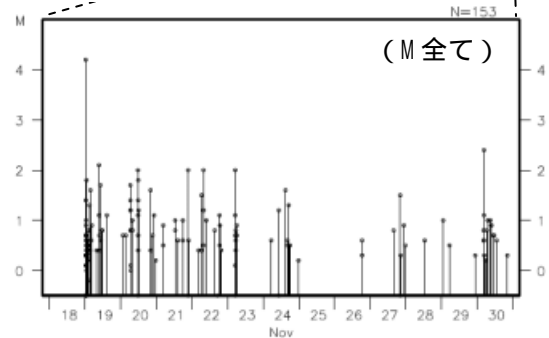
2009年11月19日00時23分に網走支庁北見地方の深さ7kmでM4.2の地震(最大震度3)が発生した。今回の地震は、内陸の地殻内で発生したものである。11月30日現在も余震活動は継続しているが、震度1以上を観測した余震は発生していない。

2001年10月以降の活動を見ると、今回の地震の震央付近(領域a)では、M4.0以上の地震は今回のみである。

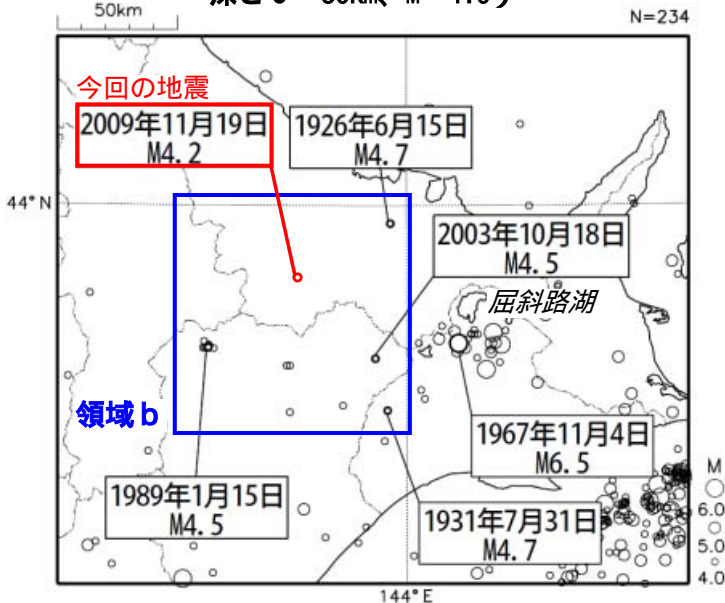
領域a内の地震活動経過図



2009年11月18日~11月30日

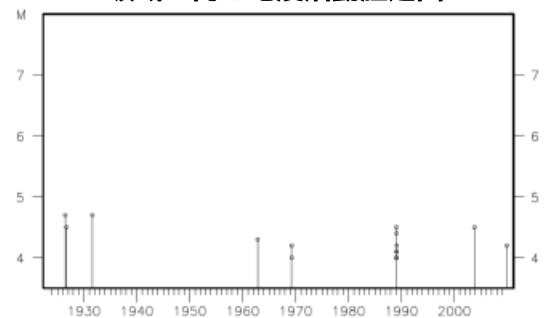


震央分布図(1923年8月1日~2009年11月30日、深さ0~50km、M 4.0)



1923年8月以降の活動を見ると、北海道東部の内陸の地殻内では、屈斜路湖の南側でM6.0以上の地震が発生することがある。しかし、今回の地震の震央周辺(領域b)では、M4.0以上の地震が時々発生しているが、M5.0以上の地震は発生していない。

領域b内の地震活動経過図

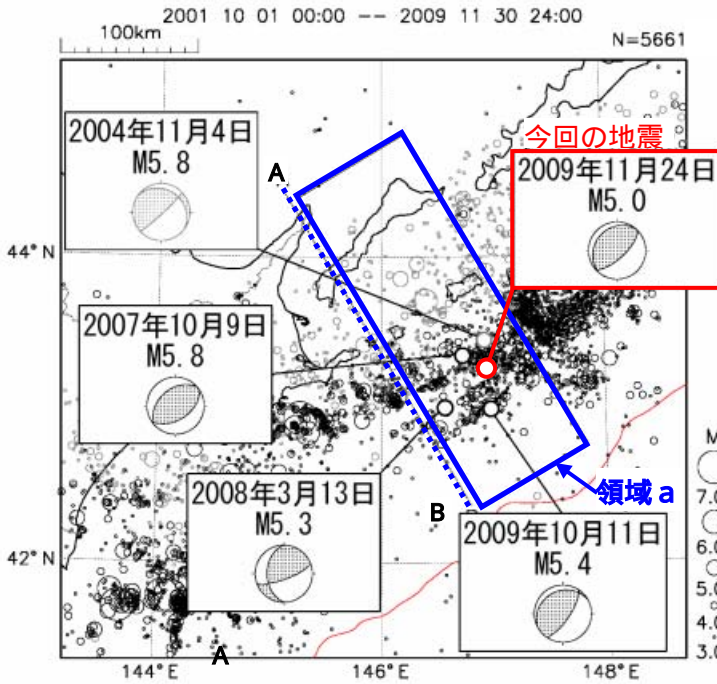


1940年頃から1960年頃にかけては検知能力が低下している。

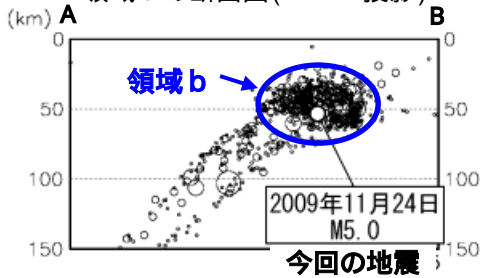
# 11月24日 北海道東方沖の地震

震央分布図

(2001年10月以降、M 3.0、深さ0~150km)  
 発震機構はCMT解。深さ60km以浅を濃く表示。

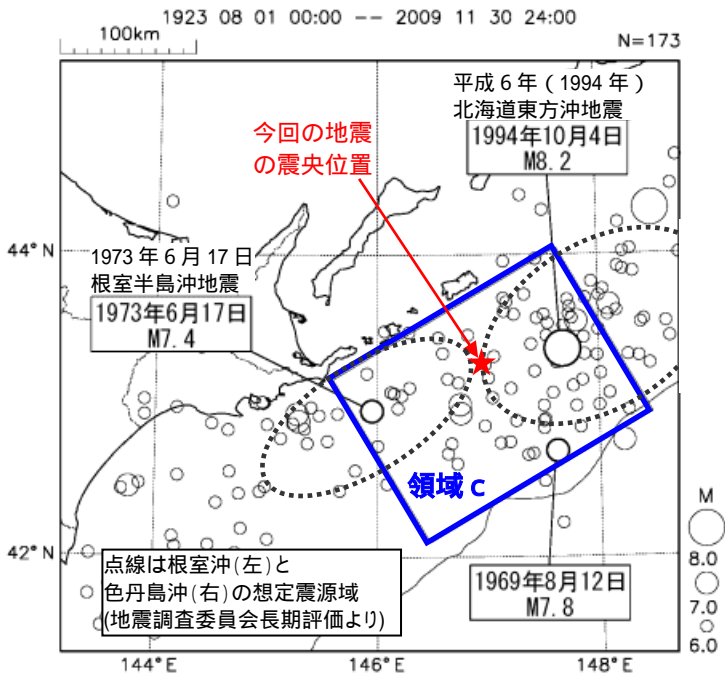


領域aの断面図(A-B投影)



震央分布図

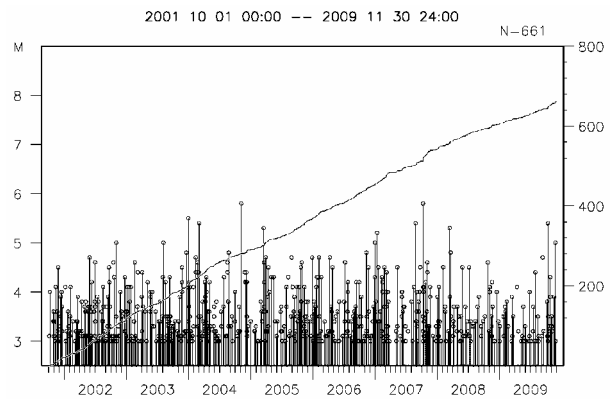
(1923年8月以降、M 6.0、深さ0~100km)



2009年11月24日14時25分、北海道東方沖の深さ53kmでM5.0の地震(最大震度3)が発生した。この地震の発震機構(CMT解)は北西-南東方向に圧力軸を持つ逆断層型であった。

2001年10月以降の活動を見ると、今回の地震の震源周辺(領域b)では、M5.0以上の地震が時々発生している。最近では、2009年10月11日にM5.4の地震(最大震度3)の地震が発生している。

領域b内の地震活動経過図、回数積算図



1923年8月以降の活動を見ると、今回の地震の震央周辺(領域b)では、M7.0以上の地震が時々発生している。「平成6年(1994年)北海道東方沖地震」(M8.2、最大震度6)では、日本国内では負傷者436名等の被害や津波(国内の最大は根室市花咲の168cm)による被害も発生した(被害は「最新版 日本被害地震総覧」による)。

領域c内の地震活動経過図

